

# 精神看護学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：精神看護学の観点から、こころの健康、健康問題、障がいについて広く学びます。個人のこころと精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団におけるこころの問題、そして社会的側面として、精神保健福祉について学びます。

■**到達目標**：①精神看護の枠組みおよび精神保健福祉の考え方がわかる  
②こころのケア／精神看護に必要とされる様々な理論モデルがわかる  
③精神の機能と対人関係によるこころへの影響がわかる  
④こころの健康の重要性を理解し、生活の場と結び付けて考えることが出来る

■**担当教員**：

守村 洋

■**授業計画・内容**：

- 第1回 精神看護の枠組みとこころの理解
- 第2回 生活の場とクライシス（精神的危機）（1）クライシス、家庭における危機、学校における危機
- 第3回 生活の場とクライシス（精神的危機）（2）職場における危機、地域における危機
- 第4回 医療現場における精神危機 看護師のメンタルヘルス、リエゾン精神看護
- 第5回 社会とメンタルヘルス
- 第6回 災害後の精神保健福祉活動 ト라우マ、PTSD
- 第7回 障害を抱えて地域で生きていくこと NIMBY症候群
- 第8回 精神保健福祉、障害者の権利擁護

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』（メヂカルフレンド社）2015

■**参考文献**：（精神看護学概論・精神看護援助論・精神看護技術論・精神看護学臨地実習共通）  
『精神看護学I—精神保健学』第6版／吉松和哉ほか編（ニューヴェルヒロカワ）2015  
『系統看護学講座 専門分野II 精神看護学I精神看護の基礎』（医学書院）  
精神障害者の退院計画と地域支援（医歯薬出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験80% 各授業で行われる提出物10% 出席20%  
出席参加度は、減点法とする。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	習得の度合い	80
提出物	△			△	学習への取組	20

◎：より重視する ○：重視する △：考慮する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：この科目の基礎に人間発達援助論があります（ライフサイクルと精神保健の部分は人間発達援助論で講義済みですので原則として省略します）。

この科目を基礎として精神看護援助論、精神看護技術論、精神看護学臨地実習、援助的人間関係論、臨床心理学、ヘルスマネジメント実習、卒業研究を学びます。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学問として学ぶだけでなく、自分や周りの人たちのこころの健康に気を配ることが出来るようになることを期待します。また、この科目は、精神障がいを抱えて生きる人たちの看護ケアを学ぶ入り口でもあります。強いストレスに直面している人や精神障がい者にどのように向き合い、自分には何が出来るのだろうかということも考えながら出席していただきたいと思ひます。